

実用新案登録願

昭和55年4月10日

特許庁長官 川原能雄 殿

1. 考案の名称

反射笠

2. 考案者

住所 (居所)  
氏名  
(国籍)

実用新案登録出願人と同じ

(ほか 名)

3. 実用新案登録出願人

住所 (居所) 東京都町田市本町田3934-1  
氏名 (名称) 角井孝明  
(国籍)

4. 代理人

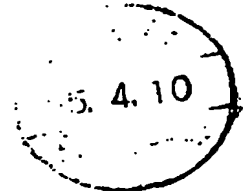
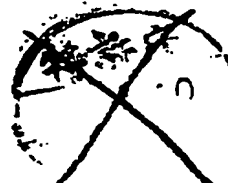
郵便番号 107  
住所 東京都港区北青山2丁目7番22号 鈴木ビルディング  
電話番号 東京 (404) 5768 番 (代表)  
(郵送先: 東京都港区赤坂郵便局私書箱第75号)

氏名 (6401) 弁理士 浜田治雄 (ほか3名)

5. 添付書類の目録

- (1) 明細書
- (2) 図面
- (3) 願書副本
- (4) 委任状

1 通  
1 通  
1 通  
1 通



55 047609

150006

6 前記以外の代理人

(1) 住 所 東京都港区北青山3丁目7番22号鈴木ビル  
電話 東京(404)5768 番(代表)

氏 名 (7604) 井理士 山 本 喜 幾

(2) 住 所 同 上

氏 名 (7766) 井理士 千 兼 剛 宏

150006

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

#### 反 射 笠

### 2. 実用新案登録請求の範囲

- (1) 溝形ないしは樋形の長形部材からなり、この長形部材の内部を鏡面体として構成すると共にその頂部内側に一もしくはそれ以上の跨着部材を突設して直管形蛍光ランプに装着することを特徴とする反射笠。
- (2) 長形部材の頂部外側に一もしくはそれ以上の係止部材を突設することを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載の反射笠。

### 3. 考案の詳細な説明

この考案は、照明器具の反射笠に関するものであり、一層詳細には、直管形蛍光ランプに好適に使用される反射笠に関するものである。

従来より、直管形蛍光ランプから発せられる光を反射させる手段としては、例えば、対向配置されるソケットの取付部材を銅板等の金属板で被覆してこの金属板の表面に研磨加工、アル

ミニウム蒸着加工、白色ほうろろ加工等を施したものの、あるいは、取付部材自体を反射率の高い明色の合成樹脂材で形成したものの等をそのまま反射板として構成する方法がとられている。

しかしながら、これらの反射板は、ソケット取付部材と一体的に構成されているため、清掃の際これを簡易に取外すことが困難であり、従つて作業が面倒であるばかりでなく、蛍光ランプの配光曲線の形状が下方が膨出したハート形であることから光が拡散して反射効率が低下する等の欠点があった。

そこで、考案者は清掃が容易で光の反射効率も良好な反射笠を得るべく鋭意改良並びに試作を重ねた結果、銅板等を折曲加工して溝形ないしは樋形の長形部材を形成し、この長形部材の内部を鏡面仕上げとすると共にその内側頂部に一對の弾性片等で形成した一もしくはそれ以上の跨着部材を設け、この跨着部材を直管形蛍光ランプに着脱自在に装着して蛍光ランプから発せられる光を鏡面で反射するように構成すること

とにより所期の目的を達成できることを突き止めた。

従つて、本考案の一般的な目的は清掃が容易で光の反射効率も良好な反射笠を提供するにある。

本考案の主たる目的は、溝形ないしは樋形の長形部材からなり、この長形部材の内部を鏡面体として構成すると共にその頂部内側に一もしくはそれ以上の跨着部材を突設して直管形蛍光ランプに装着することを特徴とする反射笠を提供するにある。

また、この反射笠において、長形部材の頂部外側に一もしくはそれ以上の係止部材を突設してこの係止部材を直管形蛍光ランプの取付部材に係止させれば反射笠の装着を確実に行うことができる。

本考案の他の目的および利点は以下の説明から一層明らかとなるであらう。

次に、本考案に係る反射笠の好適な実施例につき添付図面を参照しながら以下詳細に説明す

る。

第1図において、本考案に係る反射笠1は、矩形の鋼薄板を折曲加工して断面形状を下方が拡開する逆樋形に形成した長形部材12からなり、この長形部材12の内側面をメッキ加工等で鏡面14として形成し、さらに長形部材12の頂部内側に、例えば、対向配置した一对の湾曲状弾性片16, 16で形成した二つの跨着部材18, 18を突設することにより構成される。なお、この場合、長形部材12は直管形蛍光ランプ20の長手方向側面をほぼ覆うような形状であれば、その断面形状を多角形あるいは半円形に形成することもでき、また、跨着部材の数も長手方向の寸法に応じて適宜選定するのが好ましい。

このように構成した反射笠を使用するに際しては、まず蛍光ランプ20の側面に湾曲状弾性片16, 16の先端部を当接して押圧することにより跨着部材18, 18を蛍光ランプ20に装着して長形部材12を蛍光ランプ20に予め

取付け、次いで、この蛍光ランプ20を取付部材22と一体的に設けたソケット24、24に装着し、さらに長形部材12を適宜回動してこの長形部材12が蛍光ランプ20の側面を覆いかつ鏡面14が光を好適に反射するようにその位置を設定する（第2図参照）。

このように構成した本考案に係る反射笠によれば、反射笠を蛍光ランプと共に簡単に取り外すことができるので清掃作業を極めて容易に行うことができるだけでなく、反射笠を適宜回動してその位置を調整できるので、光の拡散を阻止して反射効率の向上を図ることができる効果が得られた。

また、第3図は長形部材12の頂部の所定箇所を切欠いて斜め上方に指向する引起し係合部26を形成し、この引起し係合部26の先端部を取付部材22に弾力的に係合するように構成した実施例であるが、この場合は、反射笠を取付部材に対してしつかりと装着することができる。

先に述べたように、本考案に係る反射笠によれば、取外しが簡単なので清掃作業が容易でしかも蛍光ランプから発せられる光の反射効率も向上させることができその実用的効果は極めて大きい。

以上、本考案に係る反射笠の好適な実施例につき説明したが、本考案はこの実施例に限定されるものではなく本考案の精神を逸脱しない範囲内において種々の改良変更をなし得ることは勿論である。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は、本考案に係る反射笠の好適な実施例を示す一部切欠き斜視図、第2図は第1図に示す反射笠の使用状態を示す一部切欠き側面図、第3図は本考案に係る反射笠の別の実施例と蛍光ランプのソケット取付部材との関係を示す要部断面説明図である。

10 … 反射笠

12 … 長形部材

14 … 鏡面

16 … 湾曲状弾性片

18 … 跨着部材

20 … 蛍光ランプ



22 ... 取付部材

24 ... ソケット

26 ... 引起し係合部

実用新案登録出願人 角 井 孝 明

出願人代理人 弁理士 浜 田 治 雄

同 弁理士 山 本 喜 幾

同 弁理士 千 葉 剛 宏

FIG. 1

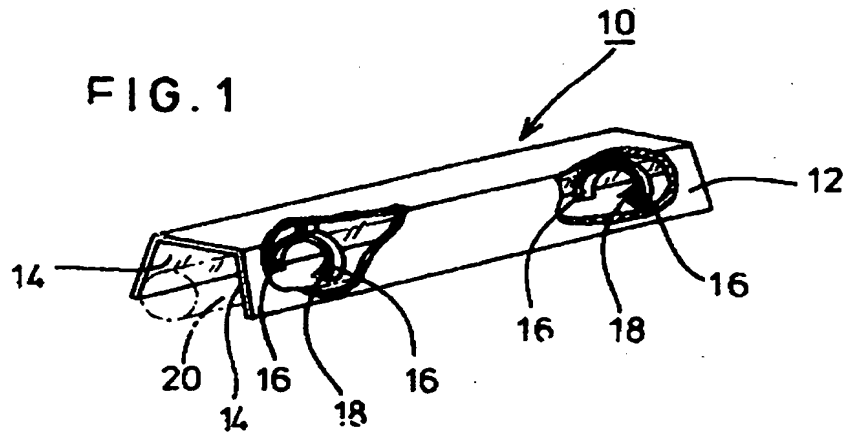


FIG. 2

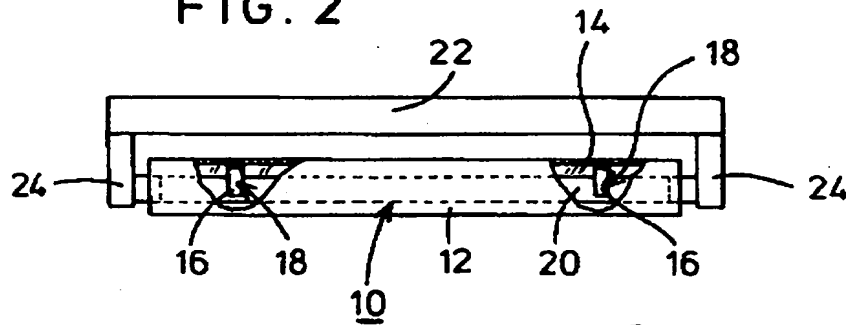
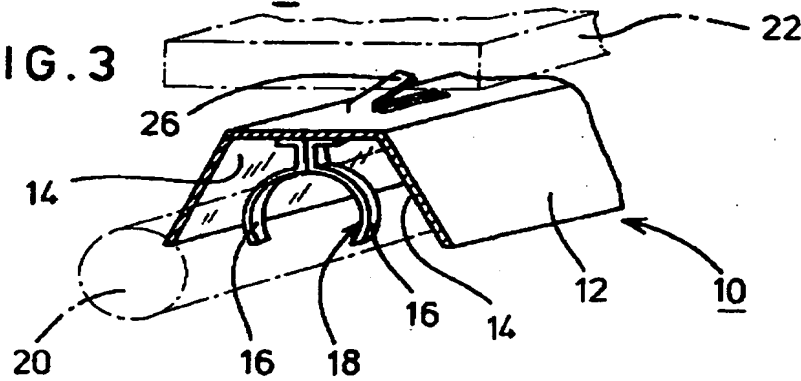


FIG. 3



実用新案出願人 角井 孝明

5006

出願人代理人 弁護士 浜田 治 雄  
(特028)

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☒ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**